



令和4年度 福島県立須賀川支援学校郡山校 学校経営・運営ビジョン 中間評価

校訓

健康・友愛・感謝

教育目標

- 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
- 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

学校像

- ・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
- ・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
- ・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

児童生徒像

- ・明るく 強く 生きる人
- ・自ら学び 考える人
- ・心豊かで 思いやりのある人

教員像

- ・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
- ・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
- ・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

< 今年度の努力目標 >

一人一人の病気や心身の状況に応じて、安心して学べる環境や教師との信頼関係を構築しながら
学習内容や方法を工夫して設定し、学びに向かう力、社会の中で適応できる力の育成に努める。

各種計画 目標

健康

体

明るく 強く 生きる人

- 病気を理解し、健やかな体の育成をめざします
- 健康で安全な生活の充実【児生：A 保：A 教：A】
- 医療と連携した指導の充実【児生：— 保：A 教：A】

友愛

知

自ら学び 考える人

- 教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします
- 学びに向かう力・基礎学力の育成【児生：A 保：A 教：A】
- 病弱教育の専門性の向上【児生：— 保：— 教：A】

感謝

徳

心豊かで 思いやりのある人

- 豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします
- 地域社会の中で必要な基礎的な能力の育成【児生：A 保：A 教：A】
- キャリア教育の充実【児生：A 保：A 教：A】

学部目標・学級目標

入学

転入出

卒業

小学部

中学部

進路先

○保健部

- 生命の尊重についての話や性に関する指導を、支援が必要な児童生徒に個別に実施することができた。
- ◆性に関する指導は、男女差や年齢差を考慮し、学校全体で対応できるような体制を作って実施する。
- 保護者と教員に対し、学校の健康課題についてアンケートを取り、その結果を基に学校医、歯科医、薬剤師からアドバイスを受け指導に生かすことができた。
- ◆後期も学校医等から郡山校の健康課題について情報提供を受ける機会を設定する。また、児童生徒の主治医から服薬の変更に伴う配慮点や医療面の留意事項について情報を随時収集し、養護教諭が中心となってその情報を提供する。

○小学部

- 病状により通学が難しい児童に、学習形態を工夫しながらオンライン学習を実施した。また、理科や図工では、中学部の専門教科の教員からも指導を受けたことで、学習に対する関心を深められた。
- ◆中学部進学を見据え、児童の学習特性や配慮事項を引継ぐなど、学部間の連携をさらに進めながら指導を行う。
- 中学部
- 常に生徒の様子に目を配り、必要に応じてかわる教師間で情報を共有しながら、様々な事柄に対応することができた。
- ◆進学を控えた3年生を中心に、不安や悩みを十分に聞いたり、一緒に考え提案したりしながら、安心感を高め日々の指導を行う。
- 研修部
- 事例検討会やICT研修会では、研修部が中心となって研修内容を決定して進めたため、教員のニーズに一部合わないことがあった。
- ◆教員の意見を収集しながら、後期の事例検討会やICT研修会の内容について計画実施する。

○小学部

- 他の児童生徒と公共施設等を利用する行事に参加できた。コミュニケーションの取り方が次の課題として挙げられた。
- ◆校外学習や小集団での活動場面に加え、日常生活でもコミュニケーションの取り方を個に応じて学べるよう指導する。
- 中学部
- 教員を介してのやり取りを重ねたことで、生徒同士でのコミュニケーションの場が少しずつ増えてきた。
- ◆登校日数が少ない生徒に対して、どのようなやり取りの場を設定できるか学部内で検討し、教員の態勢を整えたり、本人に具体的な場面を提案したりする。
- 指導部
- 中学部3年生を中心に進路指導を行ったが、他学年の児童生徒に対しては、具体的な指導が十分ではないケースもあった。
- ◆担任と連携を図り、個々の興味関心に合わせながら「進路の手引き」を効果的に活用した進路指導を実施する。

センター的機能の充実 ～ 地域のニーズに応じた指導の充実をめざします ～ 【児生：A 保：A 教：A】

○地域支援センターさくらぎ

- <地域> □学校や主治医からの紹介を受けて来校する教育相談では、最初から就学相談になることが多かった。後期は就学相談関係が増えるため、センター部員以外での対応が必要となる。
- ◆地域支援アドバイザーを講師として研修会を実施し、相談支援の在り方や就学に関する情報等を全員で学び、学校全体で相談できる体制作りに努める。
- <校内> □日々の悩みや問題解決のためのスクールカウンセラーや前職員から指導助言を受け、児童生徒や保護者に対して適切な関わり等を工夫できたが、全体に共有するまでには至らなかった。
- ◆スクールカウンセラーから児童生徒や保護者に対する適切な支援について、全体で研修を行う場を設定する。